

(5) 血液透析患者における頻脈と生命予後との関連 (図表5)

論文の概要

2005年末に週3回の維持血液透析を受けていた患者を対象として、脈拍数と生命予後との関連を検討した報告である。

タイトル：Tachycardia as a predictor of poor survival in chronic haemodialysis patients

著者：Iseki K, Nakai S, Yamagata K, Tsubakihara Y

掲載：Nephrol Dial Transplant 2011；26（3）：963-969

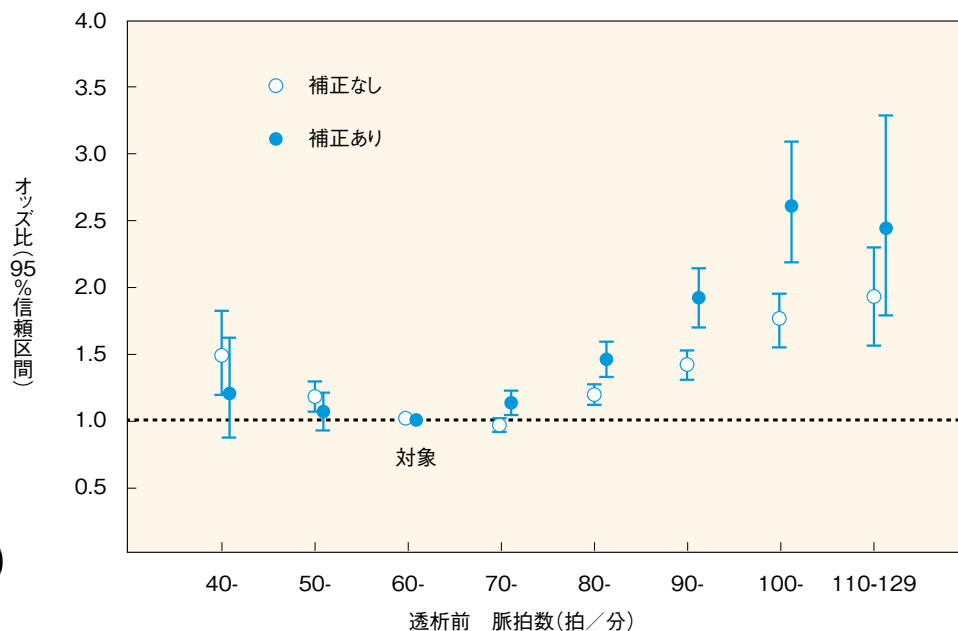
対象：2005年末に週3回の血液透析を施行されていた患者のうち、年齢が20～89歳で脈拍数が得られた147,702人

要因：透析前の1分あたり脈拍数（8層に層別化）

アウトカム：1年間の全死亡

結果：脈拍数60～69を比較対照とすると、脈拍数80以上では脈拍数が多くなるほど死亡リスクは増大していた。

頻脈と生命予後との関連



死亡数(人)	93	641	2,294	3,298	1,978	978	359	117
患者数(人)	1,068	9,022	37,466	56,297	27,607	11,651	3,525	1,066

“補正あり”は、年齢、性別、透析歴、糖尿病有無、収縮期血圧、body mass index、血清アルブミン、ヘモグロビン、心筋梗塞既往、そして降圧剤使用有無で補正されたオッズ比を示す。

(許諾を得て引用・改変)

解説

脈拍数が生命予後と関連することは、一般人口においては知られていた。しかし、透析患者においては必ずしも明らかにされていなかった。特に透析患者の大規模コホートを対象に脈拍数と生命予後との関係を明らかにした報告としては、本報告が初出となる。本報告は、透析前脈拍数80以上において高い脈拍数が高い死亡リスクと関係することを示している。脈拍数が高くなる背景として、交感神経活性化や副交感神経抑制あるいはうっ血性心不全の存在が考えられる。しかし、本調査ではこれら背景疾患の存在を評価するための他の情報（心電図、心エコー、冠動脈造影などの所見）は調査されておらず、これらについての分析は行われていない。この報告では、脈拍数の高い患者はこれの低い患者に比して栄養状態に関連する指標（Body Mass Index、透析前血清クレアチニン、血清アルブミン）が良好であり、降圧薬を服用している患者の比率が少なかったことを合わせて報告している。ただし本研究で示された脈拍数と死亡リスクの関係は、これら栄養指標や降圧薬内服有無に関連する患者分布の偏りがロジスティック回帰分析によって補正された上で導かれている。